マレーシア内閣改造：「イスラム担当相」と「女性担当相」

マレーシア首相府が１月中旬に発表した内閣改造人事では新大臣２人が任命された。実質的には「イスラム担当相」に当る首相府大臣(イスラム問題担当)に抜てきされたアブドゥル・ハミド准将と、この内閣改造を機に新設された女性問題担当省の初代大臣に就任したシャリザット氏だ。多数派民族のマレー人社会で与党第一党・統一マレー国民組織(ＵＭＮＯ)に対する支持率が減少傾向にある中で、マハティール首相は「イスラム担当相」と「女性担当相」にマレー人の心を政権に繋ぎ止めるための政治的役割を期待している。

首相の「専決事項」

1999年12月に発足した現・第５次マハティール政権の初めての内閣改造については、地元マスコミで昨年12月から取り沙汰されてきた。様々な「消息筋」が「大臣の半数が交替する」、「法務相が設置され、連邦直轄区相が復活する」といった「内部情報」を提供した。特に、入閣の可能性が予測された筆頭格が、ムハマド・ムハマド・タイブ元スランゴール州首席相。与党連合「国民戦線」の中核政党・統一マレー国民組織(ＵＭＮＯ、総裁：マハティール首相)の総裁補であるにもかかわらず、未だに公職に就いていないからだ。

しかし、首相府が１月18日に発表した内閣改造人事は、それまでの「内部情報」の大半が「ガセネタ」だったことを証明した。閣僚人事はマハティール首相の文字通りの「専決事項」で、側近でさえ首相の人事構想はわからなかったということだろう。ムハマド・ムハマド・タイブ氏の入閣は今回もなかった。一方で更迭されたり、ポスト替えになった閣僚もなく、改造人事は新設ポストへの任命と空席になっていたポストを補充するだけの小規模なもの。マハティール首相自身も「マスコミが勝手に騒いだだけで、今回の人事は『内閣改造』と呼ぶようなものではない」と語っている。

その人事リストの詳細は次の通りだ(本稿執筆時点では、人事の発効は国王による認証式が行われる予定の１月30日)。

1．アブドゥル・ハミド・ザイナル・アビディン(退役准将)－首相府相
2．シャリザット・アブドゥル・ジャリル－女性問題担当相
3．トゥンク・アドゥナン・トゥンク・マンソル(上院議員)－首相府副相
4．Ｍ・ケイバスー住宅・地方自治副相
5．ザイヌディン・マイディン(上院議員)－情報省政務次官

改造後のマハティール内閣は、大臣が首相、副首相を含み29人(31ポスト：兼任２人)、副大臣が29人、政務次官が16人で構成されることになる。

閣僚人事の「政治的意図」

ここで各人事の持つ意味を探ってみよう。

【大臣人事】首相府には４人の無任所相(首相府相)がいるが、その一人で長らく宗教(イスラム)行政を担当してきたアブドゥル・ハミド・オスマン氏が「健康上の理由」から１月15日付で辞任。今回の内閣改造では、その後任に前イスラム振興局(Jakim)局長のアブドゥル・ハミド・ザイナル・アビディン退役准将(［人物データ・ファイル］参照、以下《ｐ》)が任命された。同准将は前任者とは名前(アブドゥル・ハミド)が同じで、エジプトのアルアザール大学で修士号(イスラム法)を取得したウラマ(イスラム導師)である点、また官僚としてイスラム問題担当局の局長を務めた点などよく似た経歴を持っている。

興味深いのは、「健康上の理由」で退いたはずの前任者のアブドゥル・ハミド氏がその直後に宗教問題担当首相顧問への就任を受け入れていることである。しかも、待遇は閣僚級という。本人は言明を避けているが、閣僚辞任は新ポストへの就任を前提にしたものだった可能性が高い。マハティール首相は首相府内に「イスラム担当相」と「イスラム問題顧問」という２人の(同名の)ウラマを置いたことになる。

このように、首相がイスラム問題の専門家を重視している理由は、イスラム国家の樹立を党是にする野党第一党の全マレーシア・イスラム党(ＰＡＳ)の「イスラム化」攻勢にあることは明らかだ。原理主義的なＰＡＳの政策に対抗して、多数派民族マレー人の心を先進社会との調和を図る近代的イスラム主義の立場に向けさせることが首相にとって急務になっているのだ。

マハティール首相はそのために、政府の公式なイスラム行政を「イスラム担当相」に担わせ、ＵＭＮＯの立場からの宗教戦略に、同郷の仲で絶大な信頼を置く「イスラム問題顧問」と取り組んでいく意図を持っているのではないだろうか。

一方、今回の内閣改造を機に「各界からの強い要請の下に」(マハティール首相)新設されたのが女性問題担当省で、その初代大臣にはシャリザット・アブドゥル・ジャリル前首相府副相(女性問題担当)《ｐ》が昇格した。同氏はＵＭＮＯでも昨年５月から女性部(Wanita)副部長に就任しており、与党連合の政治家の中では女性問題担当相に最適の人物といえよう。因みに、現政権における女性の正大臣は、ラフィダ・アジズ通産相、シティ・ザハラ・スライマン国民統合・社会開発相に次ぎ３人目となる(注１)。

シャリザット氏は、女性問題担当省の新設を「非政府組織(ＮＧＯ)を含む国内すべての女性運動による50年に及ぶリーダーシップと闘いの結実である」と意義付けている。そして、今後の同省の活動については、次の３つの基本目標を掲げることを明らかにした。

・全国女性の大多数に恩恵があるような政策を立案する
・ＮＧＯや市民団体と可能な限り手を携えて活動する
・女性の基本的で伝統的な役割を尊重し、強化する

ここで最後の点については、野党ＰＡＳがイスラム至上主義の立場から女性の家事以外の活動への参加に否定的なのに対して、シャリザット氏は、女性問題担当省はマレーシア社会における女性の伝統的な役割を踏まえた上で、政府が昨年来推進する「Ｋ(知識集約型)－エコノミー」の時代に相応しい新しい女性像を模索するとしている。

こうした女性問題担当省への反応では、野党連合側には明らかに足並みの乱れが見られる。女性の社会進出に肯定的な華人社会を基盤にする民主行動党(ＤＡＰ)は、今回の内閣改造で評価できる唯一の点はこの新設省だとして、一定の評価を与えている。ただし、「(同省は)ＵＭＮＯが女性有権者を野党連合から引き離す試み」(チョン・エンＤＡＰ Wanita 部長) だとの警戒感を隠さない。

ＰＡＳ最高顧問のニック・アジズ・クランタン州首席相は「(イスラム法に従っている)同州の女性には問題などない」として、同州は連邦政府の施策は採用しないと断言している。ムスタファ・アリ同党総裁補は、女性問題担当省の新設とシャリザット大臣の任命は「政治的な打算」と吐き捨てる。しかし、すでに様々な折に政策上の不一致が露呈しているＰＡＳとＤＡＰは、与党連合が提示した女性の役割や支援のあり方でも論争する可能性がある。マハティール首相は女性問題担当省に行政機関としての業務以外に、「副産物」としてこうした政治的な効果も念頭に置いていることは間違いない。

人民進歩党総裁の政府入り

【副大臣人事】昨年12月に上院議員に任命され、入閣の布石ではないかと噂されていた実業家のアドゥナン・マンソル氏《ｐ》は、首相府副相としての政府入りとなった。同氏は、ＵＭＮＯにおいてクアラルンプールを含む連邦直轄区を率いていることから、首相府でも直轄区問題を担当すると見られる(本稿執筆時点)。また、同氏はくじ事業を中核とする複合企業ベルジャヤ・グループを率いるビンセント・タン氏のビジネス・パートナーとして知られ、家庭用品の製造販売を手がけるウンザの会長なども兼務。また、インターネット事業を精力的に展開する MOL ドット・コムなどの大株主でもある。

また、住宅地方自治省の副相には、与党連合14政党中の小政党である人民進歩党(ＰＰＰ)のケイバス総裁(上院議員)《ｐ》が就任した。ＰＰＰ党員の政府入りは、90年の同党による与党連合への参加以降初めて。ＰＰＰの支持基盤はインド系住民で、サミー・ベル公共事業相率いるマレーシア・インド人会議(MIC)の支持層と重複している。この人事には、インド人社会においても政権の支持基盤を拡大することを狙ったマハティール首相の意図が伺える。

さらに、情報省の政務次官には、ＵＭＮＯが権益を保有するマレー語新聞社ウトゥサン・ムラユのザイヌディン・マイディン副会長(上院議員)《ｐ》が任命された。ＵＭＮＯに対しても歯に衣着せぬ批評をしてきたザイヌディン氏の政府入りには、野党の一部からも一定の評価が出ている。

この他、１月18日には、官僚トップで内閣官房長官を兼務する首相府官房長官の交代人事が内閣人事と合わせて公表され、前人事局長のサムスディン・オスマン氏《ｐ》が同ポストに就任することになった。前官房長官のタン・スリ・アブドゥル・ハリム・アリ氏は雇用者退職積立基金(ＥＰＦ)総裁への異動が予想されている。

(注１)高位の公職にある女性には他に次の人たちがいる。
・ゼティ・アクタル・アジズ(Datuk Dr Zeti Akhtar Aziz)中銀総裁
・アイヌム・モハメド・サイド(Datuk Ainum Mohd Saaid)法務長官
・ヘリラー・モハメド・ユソフ(Datuk Helilah Mohamed Yusof)法務次官
・ハビバー・ゾン(Datuk Habibah Zon)国立公文書館長
・シャハル・バヌン・ジャファル(Shahar Banun Jaafar)国立図書館長

[既出データ]
■ムハマド・ムハマド・タイブＵＭＮＯ総裁補(00/6/1)
■ニック・アジズ・ニック・マットＰＡＳ最高顧問(00/7/1)
■サミー・ベル MIC 総裁(99/10/15)

〔人物データ・ファイル〕
マレーシア：内閣改造（1月18日発表）による昇格・新任の閣僚・政務次官

■首相府相

Minister in the Prime Minister's Department

アブドゥル・ハミド・ザイナル・アビディン（退役准将）

Brig-Jen(Rtd)Datuk Abdul Hamid bin Zainal Abidin

1月15日に健康上の理由で正式に辞任したアブドゥル・ハミド・オスマン氏（新たに宗教問題担当首相顧問に就任）の後任。今回の内閣改造はこの辞任が直接の引き金になっている。前任者とは名前（アブドゥル・ハミド）も同じなら、エジプトのアルアザール大学で修士号を取得したウラマ（イスラム導師）で、入閣前は首相府でイスラム問題担当局の局長だった点など類似する経歴を持っている。首相府相の一人にウラマを任命するのは、マレーシア政府の伝統になっているので、同氏の今回の入閣は順当な人事。前任者同様、政府におけるイスラム問題担当の最高責任者になる。

全マレーシア・イスラム党（PAS）など野党陣営がモスクを拠点に政治的活動をすることが頻繁になったため、モスクの「非政治化」が重要課題になる。また、イスラム国家の建設を掲げ、多数派マレー人の心を掴もうとする原理主義的な PAS とは、イスラム法の解釈などでも論争を展開することになりそうだ。マレーシア国軍の宗務部長を務めた異色の経歴もあり、（退役）准将の階級を持つ。なお、入閣には国会議員であることが求められるため、同氏は1月30日に予定されている国王による閣僚認証式に先立ち、上院議員に任命される予定（本稿執筆時点）。

▼ データ

【新任】首相府大臣
【年齢】57歳
【人種】マレー人
【学歴】マラヤ・イスラム大学卒（教育学）
　　エジプト・アルアザール大学で修士号（イスラム法）取得
【経歴】
　1986：マレーシア国軍宗務部（Kagat）部長
　1995：［7月］イスラム振興局（Jakim）局長
　2001：［1月30日］首相府相
【歴任】マレーシア・イスラム経済開発財団（YPEIM）理事
【横顔】
・入閣前にトップを務めていたイスラム振興局（Jakim）は、同氏の局長就任以前はイスラム関係局という名称だったが、名称変更の背景には PAS の「イスラム化」攻勢に対抗して政権側もイスラム教徒支援政策を強く打ち出していこうとの思惑がある。

■女性問題担当相

Minister for Women's Affairs

シャリザット・アブドゥル・ジャリル

Datuk Shahrizat bte Abdul Jalil

今回の内閣改造を機に「各界からの強い要請の下に」（マハティール首相）新設された女性問題担当省の初代大臣に首相府副相から昇格。「（新設は）非政府組織（NGO）を含む国内すべての女性運動による50年に及ぶリーダーシップと闘いの結実である」（シャリザット氏）。実際には、前職の首相府副相ポストでは女性問題を担当しており、統一マレー国民組織（UMNO）でも女性部（Wanita）副部長でもあることから、新しいポストはこれまでの職務の延長上にある。ただし、閣僚への昇格は担当する女性支援プロジェクトや業務への予算増大を意味する。野党第一党の全マレーシア・イスラム党（PAS）がイスラム主義の立場から女性の社会進出には否定的なのに対し、同氏は、女性問題省は政府が推進する「K－エコノミー」の時代に備えて、SOHO を活用するなどマレーシア社会における女性の伝統的な役割と新しい女性像の調和を目指すとしている。

マラヤ大学法学部卒で弁護士出身。企業の役員などを経て、中央政界入りした。女性の正大臣は、ラフィダ・アジズ通産相（UMNO Wanita 現部長）、シティ・ザハラ・スライマン国民統合・社会開発相（UMNO Wanita 前部長）に次ぎ3人目となる。

▼ データ

【昇格】女性問題大臣
【政党】統一マレー国民組織（UMNO）
　：女性部（Wanita）副部長
【人種】マレー人
【年齢】47歳（1953年8月15日生まれ）
【生地】ペナン州
【学歴】
　1977：マラヤ大学卒（法学士：優等）
【経歴】
　1977：クダー州下級判事
　1978：クアラルンプール下級判事
　1979：連邦財務局財務担当法務官
　1980：スー・ティエン・ミン＆シャリザット法律事務所のパートナーとして開業
　1986：UMW トヨタ社、オーストラル・エンタープライズ社取締役
　1988：UBN ホールディングズ社取締役
　　国家経済諮問評議会メンバー
　1995：青年・スポーツ副相
　1999：［11月］下院議員に再選（レンバー・パンタイ選挙区）
　　［12月］首相府副相
　2001：［1月30日］女性問題相
【党務】
　1981：UMNO 入党
　1989：UMNO Wanita クポン支部長（－現在）
　1994：UMNO Wanita 連邦直轄区副委員長
　2000：［5月］UMNO Wanita 副部長
【家族】夫モハマド・サレー・イスマイル（Dr Mohamad Salleh bin Ismail）との間に2男1女
【横顔】
・実践的な政治家で、直裁な物言いで知られる。非政府組織（NGO）の活動家などともフランクに話す人柄。

■首相府副相

Deputy Minister in the Prime Minister's Department

トゥンク・アドゥナン・トゥンク・マンソル（上院議員）

Senator Datuk Tengku Adnan bin Tengku Mansor

昨年12月の上院議員への任命は入閣の布石ではないかと噂されてきた。地元マスコミの一部では、同氏が統一マレー国民組織（UMNO）で連邦直轄区連絡委員長を務めていることから、連邦直轄区省を復活してその大臣へ就任との予想もあった。結局、今回の内閣改造では首相府副相として初入閣となった。首相府では、新行政都市（プトラジャヤ）などを含む連邦直轄区を担当すると見られる（本稿執筆時点）。

有力実業家で、家庭用品の製造販売などを手がけるウンザの会長をはじめ数企業の役員を務める。日本のソフトバンクとも資本提携する MOL ドット・コムや、昨年半ばに小売りの「セブン・イレブン」事業の買収を発表したグローバル・エンパイヤの大株主でもある。政界入りは1980年代初期。

▼ データ

【新任】首相府副大臣
【政党】統一マレー国民組織（UMNO）：連邦直轄区連絡委員会委員長

【年齢】50歳(1951年生まれ)
【学歴】MARA 工科大学から経営学学位取得
【人種】マレー人
【経歴】
1972：カーペット・インターナショナル(マレーシア)社ジェネラル・セールス・マナージャー
1978：自ら事業を始める
1990：[5月] シンガー・ホールディング(マレーシア)社代表取締役
2000：[12月13日] 上院議員(任命)
2001：[1月30日] 首相府副相
【党務】
1985：UMNO セプテー支部副支部長
1988：UMNO 青年部(Youth)財務部長
UMNO 青年部国際局副局長
1999：UMNO 執行書記
【横顔】
・上述ウンザ会長の他には、くじ事業を中核とする複合企業ベルジャヤ・グループを率いるビンセント・タン氏のビジネス・パートナーとしても知られる。

■**住宅・地方自治副相**
Deputy Minister of Housing and Local Government
M・ケイバス
Datuk M Kayveas

今回の内閣改造で統一マレー国民組織(UMNO)枠ではない唯一の人事。しかも同氏の入閣には地元マスコミも意外の感を持っている。同氏が総裁をする人民進歩党(PPP)の母体は1953年に創設され、90年から与党連合に参加しているが、これまで閣僚を出したことがないからだ。PPP には華人の役員もいるが、その支持基盤はインド系住民。しかし、下院議員さえ持たない小政党で、幹部の公職といえば昨年12月に総裁の同氏が上院議員に任命されたことぐらいだった。同氏の入閣は、99年12月に現内閣(第5次マハティール政権)が発足した時に、アズミ・カリド氏が地方開発相に昇格したことに伴い空席になっていたポストを埋めた形になっている。しかし、マハティール首相には少数派のインド人社会での与党連合への支持を固める意図があると見られる。

法律事務所を開業する弁護士で、93年以来 PPP 総裁を務めている。何かと内紛の多い同党幹部にプロの政治家としての自覚を促した点では高い評価を得ている。なお、住宅・地方自治省には筆頭格の副大臣にピーター・チン・ファー・クイ(Datuk Peter Chin Fah Kui)氏がおり、同(ケイバス)氏は第二副大臣になる。

▼ **データ**
【新任】住宅・地方自治省副大臣
【政党】人民進歩党(PPP)：総裁
【年齢】46歳(1954年4月29日生まれ)
【人種】インド人
【学歴】法学士
【経歴】ブランチェ&ケイバス(法律事務所)パートナー
2000：[12月] 上院議員(任命)
2001：[1月30日] 住宅・地方自治副相
【歴任】
1999：国家経済諮問評議会(NECC Ⅱ)メンバー(貧困対策委員会)
【党務】
1993：PPP 総裁に当選
2000：[10月] PPP 総裁に再選される(3期目)

■**情報省政務次官**
Parliamentary Secretary of the Ministry of Information
ザイヌディン・マイディン(上院議員)
Senator Datuk Zanuddin bin Maidin

マレーシアのマスコミ界に「この人あり」と知られたベテラン・ジャーナリスト。入閣前までは、統一マレー国民組織(UMNO)が権益を保有するとされるウトゥサン・ムラユ社の副会長(同社はマレー語紙「ウトゥサン・マレーシア」を発行する)。ジャーナリスト出身閣僚には、これまでにモハマド・カリド・ユヌス現副情報相やザレハ・イスマイル元国民統合・社会開発相がいるが、現マスコミ界の重鎮的存在の同(ザイヌディン)氏が政権に加わった意義は大きい、と地元政界通は見ている。野党勢力がインターネットを使って情宣活動を展開する中、同氏の政権入りはマハティール首相が政権基盤安定のためにジャーナリズムの役割が死活的と見ていることの表れであり、しかも各方面から「よい人事」との好意的な批評が出ている。情報省政務次官のポストは、99年12月の現内閣発足時にシャフィー・アプダル氏が副国防相に昇格した時から空席になっていた。

▼ **データ**
【新任】情報省政務次官
【年齢】61歳
【人種】マレー人
【経歴】「ウトゥサン・マレーシア」編集長
1982：ウトゥサン・グループ総編集長
1992：同編集局顧問(－94)
1998：上院議員(任命)
[8月] ウトゥサン・ムラユ(マレーシア)社副会長
2001：[1月30日] 情報省政務次官
【横顔】
・愛称はザム(Zam)。
・18歳の時、1957年8月31日のマレーシア独立を、「ウトゥサン・ムラユ」紙(当時)のストリンガー(特約記者)として取材して以来、一貫してジャーナリストとして歩んできたことに誇りを持っている。
・92年に発生した「バハサ(語)・マレーシア問題」に関連する政治的危機への関与から「ウトゥサン」グループ総編集長のポストを退いている。その後、2年間は編集局顧問に就任し、ロンドンに在住して「Mahathir Di Sebalik Tabir」(もうひとりのマハティール)を著した。

《高級官僚》
■**首相府官房長官**
Chief Secetary to the Government
サムスディン・オスマン
Tan Sri Samsudin Osman

同ポストは国家公務員としては最高位で、首相の首席補佐官的存在。内閣官房長官も兼任する。雇用者退職積立基金(EPF)総裁に転出する可能性が高いタン・スリ・アブドゥル・ハリム・アリ氏の後任。マハティール首相は同(サムスディン)氏の官房長官就任人事の発令を1月17日に確認したが、その発効がいつかは明らかにしていない(本稿執筆時点)。前任者の人事との絡みがあるからだと推測されている。同氏の前職は人事局長。

▼ **データ**
【新任】首相府官房長官
【年齢】53歳
【人種】マレー人
【学歴】米ペンシルベニア州立大学で公共行政学修士号取得
【経歴】
1969：人事局に入局(行政・外交部門)
のち、連邦政府サバ州担当次官(サバ州公安委員会委員長)
国内通商・消費者行政省次官
1996：[9月] 内務省事務次官
1998：[12月] 人事局長
2001：[1月] 首相府官房長官(人事発令)

[既出データ]
■アブドゥル・ハミド・オスマン前首相府相(00/7/1)
■シティ・ザハラ・スライマン国民統合・社会開発相(99/2/15)

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)